

# 続・町内の一枚の写真から

〜大島原移転後の小学校と奉安殿〜



▲写真1 須恵小学校の本館（中央に玄関）と小使室（右側の別棟）

須恵村立須恵尋常高等小学校（以下、小学校と略記）は昭和五年（一九三〇）、それまであった上須恵の東干田から大島原へと新築移転しました。現在の健康広場の位置が校舎の跡で、ボランティアセンターのところに講堂があり、その前の駐車場になっています。ところが運動場でした。写真1（昭和五年二月）は新築成った須恵小学校の本館です。この時は六棟ある校舎の手前半分しかまだ完成していませんでした。当時児童数は一七〇〇人を超えていました。十年後の昭和十五年は紀元二六〇〇年。この年に開発された戦闘機が零式艦上戦闘機（ゼロ戦）と命名されたのはそのせいです。ところで、この紀元二六〇〇年には須恵小の児童数はちょうど二六〇〇人を数えたというこトです（恵良弘明さんのお話。『須恵町誌』で調べてみると、昭和十五年が二四五六人、翌十六年が二六四三人と記録されています。紀元二千六百年奉祝会が行われた十一月十一日の時点で確かに二六〇〇人に達していたでしょう。写真2は、六棟すべてと講



▲写真2 須恵小学校新築落成の上棟式



▲写真3 講堂前での記念写真

堂が完成した後の上棟式（昭和五年十二月六日）の様式です。テントとテントの間には面玄関が見え、屋根の上には旗や消防団の纏が掲げられています。玄関の少し右側に祭壇が設けられ、整列した子どもたちは後ろ姿しか見えませんが、まだ多くが着物姿でした。写真3は左端に白く「須恵校新築落成」と書き込まれた記念写真。後ろの建物は講堂で、木の幹に縄が巻いてあるのは移植した直後だからです。写真4は正面中央に若杉山、左に講堂、右に小学校の玄関が見えます。その間では材木を組んでなにやら工事中です。これは昭和六年一月に天皇・皇后両陛下の御真影（写真）を拝戴したことから、鉄筋コンクリート製の奉安殿を建立することになったのです。昭和八年四月に完成。写真5はその奉安殿の前で

▼写真5 奉安殿前での記念写真



の記念写真。先生方の中央で帽子をかぶっているのが当時の小林市助校長です（昭和四年四月〜十六年三月まで在任）。先生たちの服装は、男性が背広か詰襟、女性は和装と洋装が混じっています。参考までに、写真6は昭和八年三月の仲原小学校（当時は仲原村、現・粕屋町）の奉安殿です。須恵小学校とほとんど同じ形式で、神社の本殿と同じ切妻造。棟の部分に五本の鯉木と両端の千木がはつきり見えます。

奉安殿は全国の学校に設けられ、子どもたちは遠くからでも奉安殿に向かって深々とおじぎをして通りました。災害時には御真影を守ることが先生方の最大の優先事項とされ、そのために命を落とすこともあったと言われています。

（写真提供 恵良 弘明さん）



▲写真4 工事中の奉安殿

▼写真6 仲原小学校の奉安殿

